

## 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

学位申請者	<p style="text-align: center;">阿部 祐子</p> <p style="text-align: center;">【比較社会文化学専攻 平成19年度生】</p>	<p style="text-align: center;">要 旨</p>
論文題目	<p style="text-align: center;">グローバル社会における留学生の地域交流からの学び ー日本人学生の派遣留学を中心にー</p>	<p>本研究では、グローバル社会に対応可能な人材育成を目指し、海外留学や大学の国際化が進められている大学の現状に鑑みて、国際化体制が整っているとされる A 大学から 1 年間の交換留学をした日本人学生が、留学先の地域社会との関わりからどのような学びを得たかについての検討を目的とした。</p>
審査委員	<p style="text-align: center;">(主査) 教授 加賀美 常美代</p>	<p>第 1 章では、日本における派遣留学生を中心に、政策の推移、海外派遣留学の現状、阻害要因と対策、大学の取り組み状況を概観した。第 2 章では、グローバル社会に対応した日本の大学の地域交流について、日本人学生の海外地域活動と在日留学生を活用した日本の地域交流活動の 2 点を中心に示した。第 3 章では、関連する理論として、コミュニティ心理学的視座から「個と環境の適合」「コミュニティ感覚」理論と先行研究を概観し、研究課題と方法論を述べた。第 4 章では、フィールド校の国際化及び地域交流環境について概観し、筆者の立ち位置を示した。</p>
	<p style="text-align: center;">教授 宮尾 正樹</p>	
	<p style="text-align: center;">教授 森山 新</p>	
	<p style="text-align: center;">教授 熊谷 圭知</p>	
	<p style="text-align: center;">准教授 西川 朋美</p>	

第 5 章から第 7 章は、A 大学の日本人派遣留学生を対象に実証研究の結果を示した。第 5 章では、15 人の日本人留学生に半構造化面接を実施し、留学先での地域社会との関わりについて検討した。満足度の高い交流には肯定的な環境の影響が強く、否定的な環境ではサポート資源を自身の環境へ取り込むことの重要性を示した。第 6 章では、留学生と派遣大学の支援に関する認識について検討した結果、大学の地域交流支援体制の充実度は、学生の交流満足度とは一致しておらず、支援体制の不備は、ホスト社会の人々の態度や肯定的交流経験によって補われ、担当者や社会からの精神的な支援や好意的な態度が交流を促進していた。第 7 章では、学生が帰国後の地域社会にどのように関わるかを、5 章の交流経験者 12 人を対象に KJ 法に基づいて検討した。留学中の地域交流経験の内容に関わらず、全員に多様な気づきがもたらされ、帰国後の地域社会への支援感情に関連していた。返報性感情が多く見られ、所属大学へのコミュニティ感覚が生じていた。第 8 章では総合的考察を行った。環境の及ぼす影響から、浮動層への対策や支援の連携、個人に対する関心や態度の重要性を示し、困難を踏まえた上で、支援や相互理解の促進について提言した。留学経験者は、グローバルリーダーだけでなく多文化社会におけるコーディネータなど多様な役割を担う可能性について述べた。

